

保育者アイデンティティの形成過程

大野 和男（児童学科・准教授）・小泉 裕子（児童学科・教授）

問題

1. 保育者アイデンティティの形成過程における実習の意味

保育者を目指す上で、保育に対して明確なイメージを持ち、子どもにどのように接するかを意識することは重要であり、学生のうちに保育者としてアイデンティティを確立していくことが必要である（大野・小泉，2014）。その中で、実習は重要な意味を持つ。松本（2008）によれば、実習とは、理論的側面、技術的側面から学生自身が子どもに対する理解や実習施設への理解を深めていくことを、身をもって体得していく課程である。実習中に現実を目のあたりにしてそれまで学んだことのズレを感じる学生も多いだろう。野島（2011）は、保育実習及び教育実習時において、学生が対児ストレスと受けていることを明らかにしている。そういったリアリティ・ショックをとまなう問題状況における学生の認識の変容には、「子ども理解の発展」「ショックからの回避」というどちらかのプロセスを経ることが見いだされている。どちらのプロセスをたどるかは実習先の保育者との出会いのあり方に規定されており、そのあり方が実習内容の質に大きな影響を与えるという（谷川，2010）。

2. 初めての实習の意味

「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」（厚生労働省，2013年一部改訂）では、最初の実習である保育実習Ⅰの目標として、①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する；②観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める；③既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ；④保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する；⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ、という5点を挙げている。これらのことを初めての実習において身につけていくことを学生は求められているのだ。

学生にとって、最初の実習が大きなインパクトを持つことは間違いないだろう。実習先でどのような経験をするかは、保育者アイデンティティの形成においてその後の方向を左右する。大塚（2000）は、対象者にとって最初の幼稚園での教育実習における園側の評価と自己評価を比較し、自己評価の方が総じて低い傾向を見いだしている。対象者にとっての最初の実習である教育実習において、実習園の評価で低かったのは、「衛生・安全」「計画の作成」「記録の仕方」といった項目であり、2度目の実習（保育実習）では、最初の実習（教育実習）よりも自己評価が高くなる傾向が見られた（大塚ら，2001）。

では、最初の実習において、学生は何を学んでいるのであろうか。このことに関して、高橋（2008）は、幼児理解として「成長・発達に関すること」「子どもの興味に関すること」「対人関係に関すること」「大人との共通性に関すること」「子どもの特徴に関すること」を学んでいることを明らかにしている。多くの学生が初めて子どもと本格的に接することとなる最初の教育実習では、保育者としてどのような気持ちをもって子どもに接する

べきかなど、保育を行う上で基本となる事柄を学んでおり、2回目の教育実習では、保育者はクラス担任としてクラスを運営しなくてはならない存在であること、そのために必要な技術や態度はどのようなものであるかということ、また、保護者との連携や教育課程に係わる教育時間の終了後に行う教育活動、いわゆる預かり保育に関する事など、保育の仕事により広く学んでいることも明らかとなった（高橋，2009）。

また、高橋ら（2012）は、1回目と2回目の実習の間には約6か月の期間があるにも関わらず、習熟度に関する自己評価に大きな違いが見られなかったものの、1回目より2回目の実習の方が保育技術の習熟に関して多くの要因が関与していることを見いだしている。その理由として、2回目の実習の方で部分実習や責任実習など学生が責任を持って保育実践に携わる機会を多く経験していることに起因していると推察している。

さらに、塚田（2014）は、保育実習・教育実習で学生がどのような体験をしているかを「子ども－実習生との関係」という視点を投入してとらえることを試みている。初めての实習である「保育実習」と続く「教育実習」終了後に行ったエピソード記述（鯨岡，2005）を分析の対象とし、「通じ合い場面のさまざま」「せめぎ合う2つの気持ちのはざまでの葛藤」「子どもの思いを受け止めて対応すること」の3つのカテゴリーを抽出した。初めての实習である保育実習では、子どもの思いと自分の思いとの葛藤体験が半数以上報告されたが、教育実習では、子どもとの通じ合い体験などが報告されたという。

3. 自己評価の重要性

保育者アイデンティティにおいて、実習に対して自身がどのような評価をしているかという視点も重要である。保育所保育指針（2008）においても、子どもの保育および保護者に対する保育に関する指導が適切に行われるように自己評価が求められている。松本（2007）は、実習評価についての実習園側と学生の評価の比較を行っており、実習園の評価よりも学生の自己評価の方が全体的に高いことを見いだしている。

高橋ら（2011）は、幼稚園教育実習における事前準備の習熟度と自己の自己評価の関連について、「教材研究」「子どもの気持ちの読み取り」「満足度」の観点から検討している。「教材研究」については、教材研究に習熟していると自己評価して教育実習に望んだ学生は、保育者の保育実践を省察し表面的な保育行為ではなく、その保育行為を支えている指導意図を理解し、かつ、子どもの活動に応じた保育者の援助の仕方と把握できたと考えている者が多いこと、「教材研究」の中でも特にピアノの習熟が配属・指導計画・保育技術に関する満足度に重要であること、教育実習前に「子どもの気持ちの読み取り」について習熟している学生は、教育実習体験において対保育者・対子ども・保育実践に関する達成度が高いこと、を明らかにしている。

4. 本研究の目的

学生にとって、最初の実習においては、基礎的なことを学ぶとともに、単純に言えば快体験をすることが保育者アイデンティティの形成において重要な意味を持つと思われる。松本（2007）が言うように、実習園側の評価だけではなく、自己で実習を振り返り、分析をし、保育者として必要な知識や技術を身につけ、自己を高めていかなければならない。今回の中間報告では、1回目の保育実習において、学生がその実習をどのようにとらえているのかを検討する。

方法

1. 調査対象者及び調査時期

K大学保育者養成系の学科に属する女子学生のうち、52名を対象とした。52名全員が保育士資格、幼稚園教諭1種免許の取得を目指している。このうち、さらにもう1つの免許・資格（小学校教諭1種免許、特別支援学校1種免許など）をとることを目指している者が19名であった。対象者は、2年次修了時の春期休業期間に初めての保育所での実習を行っている。その実習について、新年度が始まった2014年5月に調査を行った。学生には、調査の趣旨を説明し、了解を得ている。

2. 質問紙の構成

『実習生のための自己評価チェックリスト』編纂委員会（編集）（2005）による「実習生のための自己評価チェックリスト」をもとに、今回の実習に関する調査に合うように項目を選択した。項目の選択は、筆者2名によって行われた。作成した項目は、Table 1.の通りである。各項目は、基本的に「とても当てはまる」から「全く当てはまらない」の5件法で回答を求めた。

3. 分析方法

分析には、IBM SPSS Statistics 21を用いた。「実習生のための自己評価チェックリスト」部分に関しては、尺度ごとに平均値を求めた。よって、各尺度の最小値は1、最大値は5となる。「責任実習」尺度に関しては、責任実習を行った者のみの回答となるため、責任実習を行わなかったと思われる13名はこの尺度のみ分析から除外し、38名であった。

結果

1. 実習についての全体的な評価

Figure 1. に実習についての全体的な評価を示した。「当てはまる」「どちらとも言えない」「当てはまらない」という3段階にリカテゴリーして考えたい。回答に対して、「当てはまる」という者が50%を超えたのは、「保育者への意欲」「保育者への興味」「保育者になりたい」「実習の楽しさ」「実習の充実度」「実習での嬉しかったこと」「実習の大変さ」「保育職の厳しさ」「実習への不安」の9項目であった。

逆に、「当てはまらない」者が50%を超えたのは、「実習での嫌なこと」「実習への不満」

Table 1. 質問紙の項目

実習についての全体的な評価	13項目
I. 実習前・実習前の作業の自己評価	
1) 学内のオリエンテーション	4項目
2) 実習園でのオリエンテーション	3項目
3) 事前の準備	9項目
II. 実習中・実習内容についての自己評価	
1) 実習生としての姿勢	
(1) 勤務態度	11項目
(2) 実習への意欲・取組み	6項目
(3) 保育者（指導担当職員）との関係	9項目
2) 発達の援助	
(1) 子どもへの対応	7項目
(2) 責任実習（金目・部分）の計画・実施	14項目
(3) 指導の技術	25項目
(4) 実習日誌の内容	10項目
3) 安全管理	5項目
III. 実習後の自己評価	4項目

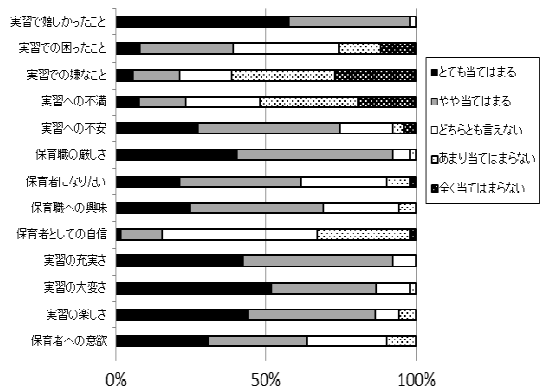


Figure 1. 実習の全体的な評価

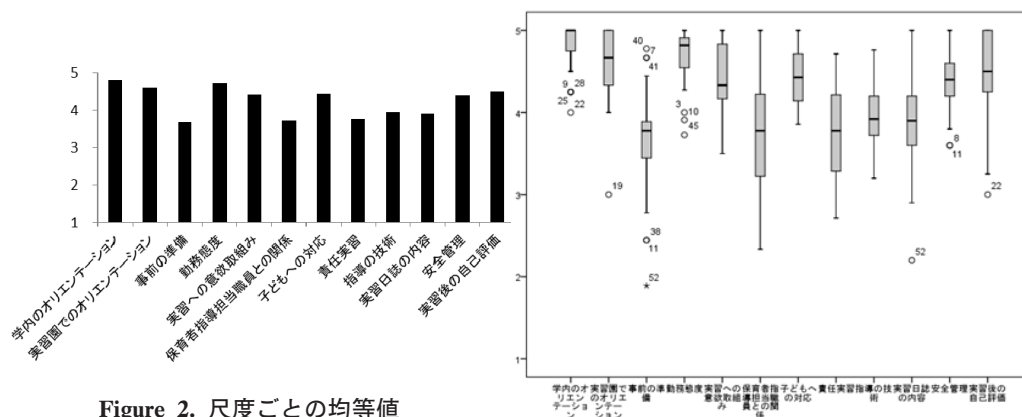


Figure 2. 尺度ごとの均等値

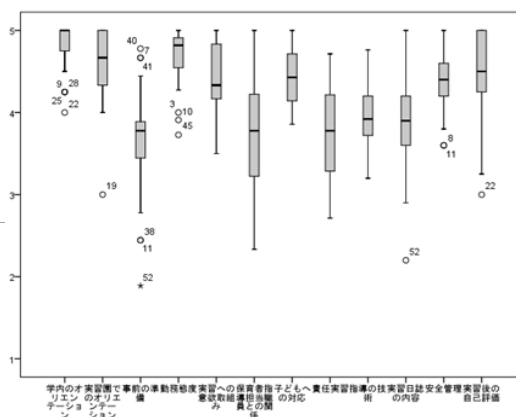


Figure 3. 尺度ごとの箱ヒゲ図

「実習での困ったこと」という項目であった。

つまり、多くの学生にとって、初めての实習は楽なものではないが充実しており、将来の見通しを持てるきっかけになっているが自信はないというものであると思われた。

2. 「実習生のための自己評価チェックリスト」尺度ごとの分析

「実習生のための自己評価チェックリスト」部分の尺度ごとの平均値を Figure 2. に示した。ほとんどの尺度において、平均値は4点台であった。その中で平均値が3点台であった尺度は、「事前の準備」「保育者指導担当職員との関係」「責任実習」であった。

このことを詳細に検討するために、箱ヒゲ図に示した (Figure 3.)。Figure 2. と Figure 3. を比較すると、ばらつきが大きい尺度は、上記の3つの尺度 (「事前の準備」「保育者指導担当職員との関係」「責任実習」と「実習日誌の内容」「実習後の自己評価」を加えた5つの尺度であった。つまり、この5つの尺度における得点が実習における自己評価の差異を生み出していると思われた。

考察及び今後の課題

実習に対する自己評価は、全体的に高い傾向にあった。初めての实習においては、緊張はしながらも、ある程度うまく行うことができたと評価していると思われた。その中で、自己評価において個人差が生じるのは、「事前の準備」「保育者との関係」「責任実習」「実習日誌の内容」「実習後の自己評価」の5つであった。先行研究が示す通り、総じて、実習生の自己評価は、実習園側と比較して高い傾向がある (例えば、松本, 2007; 大塚, 2000; 大塚ら, 2001)。つまり、この結果が、客観的な実習に対する評価ではない可能性は十分にあり得る。あくまでも学生が自己の実習の様子を振り返った自己評価であるのだ。

しかし、実習生本人が保育職に対してポジティブなイメージを持つことが保育者アイデンティティの形成の第1段階としては重要である。しかも、対象者の多くは、保育職の大変さも実感した上で保育職への興味・関心を持続していると思われた。

大多数の学生は、この後、2回目の保育実習、そして4年生になってから教育実習を行い、就職に向けて、保育者としてのアイデンティティを形成していくことになる。実習を経るごとに、保育者アイデンティティの形成における変化を縦断的に検討していく予定である。

文献

- 『実習生のための自己評価チェックリスト』編纂委員会（代表 民秋言） 2005 実習生のための自己評価チェックリスト 崩文書林.
- 厚生労働省 2008 保育所保育指針－平成20年告示 フレーベル館
- 厚生労働省 2013（一部改正） 指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について 厚生労働省雇児発第0808第2号.
- 鯨岡峻 2005 エピソード記述入門－実践と質的研究のために 東京大学出版会
- 松本学 2007 教育実習・保育実習における学生自己評価と幼稚園評価・保育所評価に比較考察 国際学院埼玉短期大学研究紀要, 28, 63-72.
- 松本学 2008 教育実習・保育実習における学生二年間の学生評価の考察 国際学院埼玉短期大学研究紀要, 29, 57-80.
- 野島正剛 2004 実習における対児ストレスとソーシャル・サポートとの関連－本学と他大学との比較－ 上田女子短期大学紀要, 27.11-20.
- 大野和男・小泉裕子 2014 保育者アイデンティティの形成過程, 鎌倉女子大学学術研究所報, 14, 35-40.
- 大塚健樹 2000 幼稚園教育実習評価と自己評価の比較－本学幼児教育科学性の場合－ 盛岡大学短期大学部紀要, 27-32.
- 大塚健樹・吉田恵子・斉藤修 2001 教育実習保育実習における実習評価と自己評価の比較 盛岡大学短期大学部紀要 11, 19-23.
- 高橋真由美 2008 幼稚園教育実習における学生の学びに関する一考察－幼児理解に着目して－ 藤女子大学紀要, 45, II, 77-82.
- 高橋真由美 2009 幼稚園教育実習における学生の学びに関する一考察（2）－幼稚園実習Ⅰと幼稚園実習Ⅱの学びの比較から－ 藤女子大学紀要, 46, II, 113-118.
- 高橋裕子・大瀧ミドリ・今村聡美 2011 幼稚園教育実習における事前準備の習熟度と自己の自己評価について－「教材研究」「子どもの気持ちの読み取り」「満足度」の観点から－ 東京家政大学研究紀要, 51 (1), 7-13.
- 高橋裕子・大瀧ミドリ・吉澤千夏・今村聡美 2012 幼稚園教育実習前後における保育技術の習熟度と学び－テキストマイニングによる分析を通して－ 東京家政大学研究紀要, 52 (1), 1-8.
- 谷川夏実 2010 幼稚園実習におけるリアリティ・ショックと保育に関する認識の変容 保育学研究, 48, 2, 202-212.
- 塚田みちる 2014 実習における〈子ども－実習生との関係〉の検討－保育実習・教育実習での体験をエピソード記述で描く－, 神戸女子短期大学論攷, 59, 1-16.

追記

調査に協力していただいた学生のみなさんには感謝申し上げます。